

はりえ しもふり 針江・霜降のカバタ

高島市針江・霜降

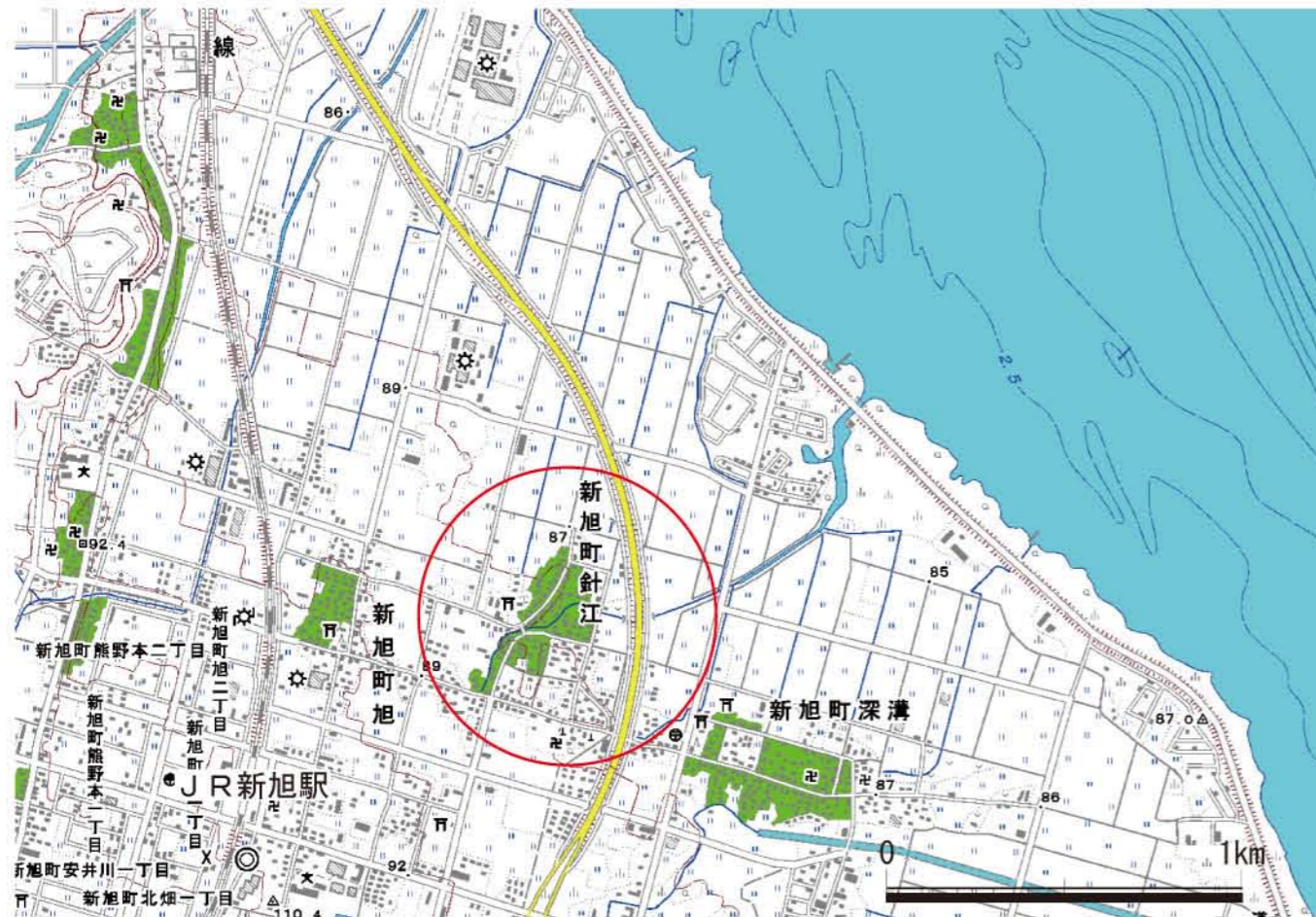
周辺の みどころ

近年「生水の郷委員会」では、見学会などを開催し、カバタをめぐる水環境システムの普及に努めている。カバタは生活に密着していることから、見学する際には「生水の郷委員会」に事前申し込みする必要がある。

また、高島市新旭では、自然と歴史を体験できる場所がある。史跡清水山城跡は豊かな里山の中にある山城で、防御施設や屋敷跡などが良好に保存されている。「清水山城楽会」が開催する体験学習などに参加することができる。



清水山城でのイベント



[アクセス]

●JR湖西線新旭駅下車徒歩15分。

[もっと詳しく知りたいひとへの案内]

(関連文献/関連施設)

- 生水の郷委員会 TEL 0740-25-6566
- 高島市教育委員会 TEL 0740-32-4467



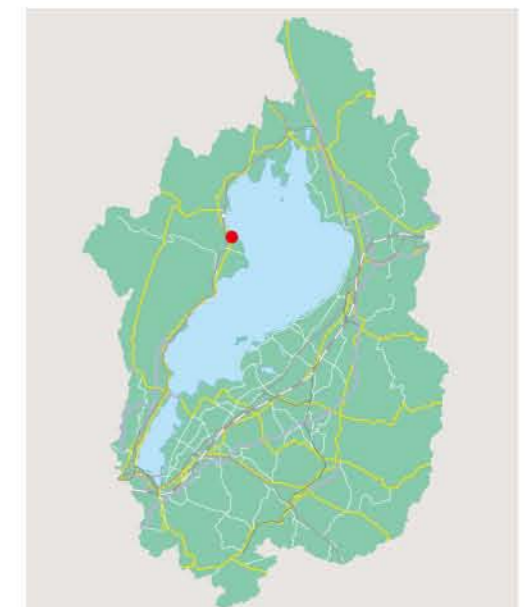
カバタで野菜を洗う (高島市教育委員会提供)

カバタは、湧水を利用した独特の洗い場(台所)で、高島市新旭町の針江地区周辺で特徴的にみることができる。

地下20m程度の深さに鉄管を打ち込むことによって安定した豊かな地下水を自噴させ、生活用水として用いるものである。なお、針江集落では半数以上の住宅で現在もカバタが使用されている。

集落のあちこちでは地下水が自噴し、これらの水が流れ込む水路や針江大川も清らかな水質を保っている。

この豊かな水環境の中には、自然とともに暮らす人々の、謙虚で豊かな知恵があふれている。





家の外に設けられたカバタ

針江・霜降のカバタ

所在地 高島市針江

水の行方

地中から湧き出した水は、カバタの中の最上流部の「元池」に溜められ、まず飲料水として用いられる。「元池」から流れ出した水は「壺池」と呼ばれるところに溜められて生活用水として用いられる。最後の「端池」はご飯粒や野菜くずなどが流れ込む場所であるが、ここでは鯉などを飼い、それらを餌として食べさせる。このことによって各家から水路へ水を流す前に水を浄化させる。

こうした水利用は、必要以上に水を汚すことはないことから、水路を流れる水は清らかに保たれている。

集落から流れ出した水は、周辺の水田を潤し、豊かな収穫をもたらした後、針江大川を経て、中島内湖に集まり、琵琶湖へと流れていった。

川と内湖の役割

針江大川や中島内湖にも大きな役割があった。そこに繁茂する水草は、刈り取られた後に水田の肥料として用いられ、堆積した泥も栄養分の多い土壌として水田に戻された。生活排水や農業排水に含まれた栄養分を回収し、再利用するとともに、針江大川や中島内湖の水質浄化を徹底させていたのである。

また、内湖の穏やかな環境は、多くの魚類を生息させる重要な場所となっている。夏場には、大川を通じて内湖とつながる水田地帯も魚類の繁殖には欠かせない場所となる。

中島内湖の琵琶湖への流出口や大川の流入部などには、カワエリやモンドリが仕掛けられ、漁労も盛んに行われていた。しかし、漁労と言っても、本格的な職業としての漁業ではなく、日々の生活の一部である「おかず獲り」として行われていたのであった。



魚が泳ぐカバタ



自噴する水



針江大川

水の循環する地域

人々は、船で針江大川を往来し、集落と内湖あるいは水田を巡った。こうした人々の生活のリズムと同じようにカバタに湧き出した清らかな水は、人々の生活を潤し、田を潤し、豊かな生命を育んだ。そして湧き出した時と同じ清らかな状態で琵琶湖へ流しだそうとした。

その過程で生み出された水田の恵みや内湖の恵みは、当然のことながら集落の人々へ還る。

生活や農耕の結果生じた雑排物も水田の栄養素として、あるいは魚類の餌として、間接的に人々に還ってきたのだ。

針江・霜降地域には、こうした水を媒介とした循環システムが構築されていたのだ。このシステムこそが「近江水の宝」に他ならないのである。